

聖  
亦  
学院  
学  
園  
祭

Vol.4

原作: フルーツ牛乳2リットル  
イラスト: ゆーちゃん





## プロローグ

土曜日の静かな朝。今日は聖恋学院の学園祭当日である。

「ふわあ〜あ……」

ふみかはその部屋のベッドで、大きくあくびをしながら目を覚ました。

「あれ……裸？」

ふみかは一瞬の間、全身の毛皮が剥がれたように感じた。彼女は寝起きの頭でぼんやりと昨日の寝る直前の出来事を思い返していた。

「そっか。昨日は……」

昨夜は両親とも泊まりの用事で家を空けており、うちには久々に再開した〇学校時代の友人、ケンとタイジが泊まりに来ていたのだ。

公園で野外3Pを繰り広げた後、この部屋でケンと二回戦目のセックスをしたのだった。そしてそのまま眠りこけたのだ。

「二人とも帰っちゃったのかな？」

ふみかにはベッドから起き上がろうとしたが、腰が筋肉痛の様な痛みで動けず、しばらくベッドでゆっくりと横になることにした。腰が痛いのも仕方が無い。昨晚、二人の男相手に激しいセックスを何度も繰り広げたのだ。昨晚だけではない。思い返せばこの一週間、学校で

拓哉と誠一ともエッチしている。

「私って……軽い女なのかなあ……」

ボーツとしながら自らの行為に対するモヤモヤ感にため息をつきながら、ふみかはゆっくりとベッドから立ち上がった。

ふみかは全裸のままリビングへ降りていくと、ソファーに脱ぎ捨てたスマホを手を取った。スマホには、ケンとタイジから明け方に帰宅したという内容のメールが入っていた。

そしてもう一件。着信履歴が入っていた。

「着信？知らない番号ね……」

履歴にあったのはふみかの電話帳には登録されていない番号。それが勇樹からの電話だったとは知る由もなかった。

「そろそろ、準備しようかな」

そう言いながら、ふみかはシャワールームへとむかった。

いよいよふみかにとって初めての、聖恋学院学園祭が幕を開けるのであった。

